

亜墨利加人^デ大騒^ぎ

刊行にあたって

江戸の幕末、黒船来航で日本国中が大騒ぎをした。その大騒ぎの世の中をからかった狂歌がはやった。

「泰平のねむりをさます蒸気船、たった四はいで夜もねられず」

ペリー一の艦隊が来た時の大騒ぎぶりが、全文手書き、鮮やかな色彩図入りで、克明に記録されている。

朝廷が熱田神宮などに攘夷祈願を命じた勅書の写し、各大名の意見、大名武士のあわてぶり、それに黒船と出会った師崎や常滑の船頭の話、黒船のイラストなど、大きさも正確に説明してある。当時の幕府の防備のようす、ペリーの肖像や来航した乗組員の服装や細かい身分調査、招待した食事の細かいメニューなど、絵入り解説で細かい所まで克明に書かれている。貴重な資料だと思う。

筆者は「猶龍」と言う人で、どんな人物であったかは、つまびらかでないが、筆まめな武士のようだ。

発行にあたって、加藤武氏に資料を提供していただき、解読文の作成は河村重秀氏（甚目寺町立東小学校教諭）に書き上げてもらいました。又小杉正氏（当館の古文書を読む会講師）溝口久一氏（美和町古文書研究家）の監修を得て完成しました。

刊行にあたって、古文書に親しむ人が多くなり、先祖の人々の生活や文化を知ろうとする人の輪が広がる事を願っています。

蟹江町教育委員会

教育長

横江 勝英

いぢぢぢにやうん
けだんふふねん
けだつとふがえふ
とふふふふふふふふふふ

亜里利加人
大暇

亜里利加人デ大暇さへ

上之卷目錄 嘉永六丑年六月三日

寅年分

一、夷国船渡来記序

一、戎夷盡

一、師崎村吉左衛門船相州浦賀江夷船渡来の趣図面相添

江戸廻船御用達治郎左衛門より達の写

一、師崎吉三郎船夷船浦賀江渡来の趣廻船問屋金左衛門より達の写

一、夷船浦賀沖江船掛り場所の図

一、熱田大宮江異船御祈禱勅御教書の写

二月廿二日の日付

一、桑名候上書

一、長州候上書 抜文句

一、筒井肥前守 伊勢守江口上相添直ニ左衛門尉上ル

川路左衛門尉

丑七月

一、御国書の御書上

一、大御番頭九鬼候組中江諭書写

一、松平越前守見込書

一、同渡り来り候ニ付戸川中務少輔鶴殿甚左衛門大久保市兵衛

堀織部守見込写

一、夷船渡来ニ付品川辺新矩御台場御築立御普請掛り

御役人衆并場所図面

一、羽田沖ニ異国船掛り居候場所絵図面

一、品川炮台間数の図并坪数一番より十番までの事

一、四大海六大州の事

一、丑寅年渡来亜墨利加船將官の事

一、諸侯方御固炮台印御備場所の絵図

一、御家渡辺半重郎殿行例の事

一、異国船江水被下候手伝人足平次郎安兵衛嚙口の事

一、武州横浜村江上陸の亜墨利加人数年齢役名并二

船名大炮等の事

一、横浜村御仮家間取の図

一、同人書状拔書

一、亜墨利加国王より献貢品数の事

一、武州横浜にて亜墨利加人江御饗応献立の事

一、今度アメリカ国王江被下候品の覚

公儀より

一、武州本牧内横浜江亜墨利加人上陸応対所江行列の図

一、亜墨利加冠り物図

一、亜墨利加水師提督彼理肖像

一、亜墨利加冠りもの并解并いろ／＼の図

一、キハタンスアナンの像

一、頭人名アワタムシ像

一、船帆の印四半等の事

一、二月廿三日林大学頭井戸対馬守

一、常滑長三郎船

安政元甲寅年十二月

一、魯西亜条約の書 筒井肥前守 川路左衛門尉

嘉永七甲寅年八月

一、英吉利亜条約の書 水野築後守 永井岩之丞

安政元甲寅年十二月

一、亜墨利加条約の書御老中連名

夷國船渡来記序

日本へ外國よりして寇せし事しばしば
なりしそが中にも人皇は九十代の帝
後宇多天皇の御代は強しめす折から
將軍は惟康親王にて北条時宗政を執行
ひし文永戊の年弘安の巳の年さみだれし
ころとも蒙古朝の国よりして軍を起し
十万余れる船を九の国の内によせたり
しかば是を防ぎ戦ふに手なく思ひ侍るに

夷國船渡来記序

我日本へ外國よりして寇せし事しばしば
なりしそが中にも人皇は九十代の帝
後宇多天皇の御代は強しめす折から
將軍は惟康親王にて北条時宗政を執行
ひし文永戊の年弘安の巳の年さみだれし
ころとも蒙古朝の国よりして軍を起し
十万余れる船を九の国の内によせたり
しかば是を防ぎ戦ふに手なく思ひ侍るに